



後期に向けて

いよいよ後期である。

前期終業式の後の学年集会でもちょっとだけ話したが、これからは教科の「勉強」のことだけ考えればよい。もちろん、それだけではつまらないと感じられるかも知れないが、このように「一つのこと」だけに集中して取り組める時期というのは、人生の中でもそうあるものではない。生きていけば、大なり小なり、常にマルチタスクを強いられるのである。ましてや、日比谷の今までの生活では、自分の家族との関わりは当然のこととして、行事のことや部活のことなどをはじめ、学習の中身であっても、課題研究のレポートとか総合のレポートとか、いろいろなことに気を配りながら生活してこなければならなかったはずだ。それが、とにかくこれからは、ひたすら教科の「勉強」だけに集中することができるのである。家族との関係だって、「勉強」さえしていれば、距離を置くことが許容される場面も出てくるだろう。

確かに受験に向けての「勉強」は、困難なことでもあるだろう。しかし、繰り返すが、それだけに集中できる、本当に貴重な時間なのである。どうかしっかり集中して、その集中の成果を、これからの人生に結びつけてほしい。

*

集中するにあたって、その障害となるものの一つがスマホであることは明かだろう。連絡をとったり、情報を取得したりするのに必須のツールであることは分かるから、一概にあ〜しろ、こ〜しろとは言わないが、その付き合い方を改善しないとイケないと感じている諸君は、今こそそれを実行しないと後悔す

ることになる。

そこで、その第一歩として、クラス全体で使い方のルールを考えてほしいと思う。今まではクラス全体で共有したい連絡事項なども色々あったと思うが、これから「勉強」に集中するにあたっては、基本「個人」が単位となる。もちろん、まだまだ共有したいことも出てくるだろうが、生活の基本は圧倒的に「個人」になるのである。そのことを踏まえて、今後のスマホの活用法を工夫して共有し、全員で「個人」が心おきなく「勉強」に向かっている体制をつくってほしい。

*

今までは、漠然と「●●大学」に入りたいと思っていた人も、3年になって真剣に進路を考え、模試にその大学の名前を書き、そして「E判定」を積み重ねたり？することで、どれだけ「そこ」に到達することが難しいか、ひしひしと実感しているに違いない。

しかし、難しいからこそ目指す価値があるのであり、「そこ」に到達したいと思う自分がいるからこそ、人は向上していけるのである。「そこ」が遠ければ遠いほど、自分を高められるのである。

ほとんどの日比谷生は、今やっと実質的なスタート地点に立ったようなものである。スタート地点でゴールのタイムを心配していても仕方ない。先ずは走ることに、つまり、ひたすら「勉強」することである。もう一度繰り返すが、これからは教科の「勉強」だけに集中できる環境が用意されているのである。

「勉強」しよう。「勉強しきった！」と言えるくらい「勉強」しよう。